



基本施策7 地域の教育力の向上と生涯学習社会の構築  
取組の柱⑮ 幼児教育の充実を図るとともに家庭教育や子育ての支援を推進する

取組34	幼児期の成長と子育てを支援する社会づくり	担当所属	総合教育センター 義務教育課 学事法制課 子育て・青少年課 こども政策課
30年度個別評価		「達成」・「進捗」 7項目/7	
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の実績	
(1) 乳幼児がいるすべての家庭を対象として、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供し、地域で子育てを支える。		<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども・子育て支援新制度により、県では、市町村の計画策定を支援するとともに県計画を策定した</li> <li>地域子育て支援拠点事業について、計画的に整備した。</li> </ul>	進捗
(2) 要請に応じて保育アドバイザーを各地域や園に派遣し、講習会を行ったり相談に応じたりすることで、子育てを支援する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域や園等からの要請に応じ、保育アドバイザーを派遣</li> <li>○派遣回数：104回</li> <li>○参加者数：4,768名</li> </ul>	達成
(3) 市町村や関係機関と連携し立ち入り検査等を実施し、保育所全体の質の向上を図るための取組を支援する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての保育所について、年1回の立ち入り検査等を行う際には、市の法人監査や給付費監査と合同で行うことにより連携した改善指導を実施（297箇所）</li> <li>検査等実施後、必要に応じて改善状況を現地確認</li> </ul>	進捗
(4) 「ぐんま幼児教育プラン」を推進するための具体的な取組等を示した「就学前のぐんまの子どもはぐくみガイド2014」の活用を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬県幼稚園教育課程等研究協議会にて、「就学前のぐんまの子どもはぐくみガイド2014」を活用</li> <li>○年2回（6月21日、10月26日）</li> <li>○参加者数（6月：211名、10月：225名）</li> <li>○特に、下で示した取組についての活用</li> <li>取組1：子ども理解</li> <li>取組5：特別な支援を要する子どもの保育</li> <li>取組6：長・短時間混合保育での配慮</li> </ul>	進捗
(5) 幼児期の教育の充実のために、保育士や幼稚園教諭の資質向上を図る研修会を、各地域や園に出向いて行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域に出向いて行う「夕やけ保育研修会」を計9回開催</li> <li>○参加者数：513名</li> <li>○参加者満足度：99%</li> <li>保育士、保育教諭、子育て支援員等、保育現場における職員の資質向上を図るための研修会を開催。</li> <li>現任保育士・保育教諭等研修において、職域階層別（新任、主任）及び教育・保育のキャリアアップ研修、施設長研修を実施。</li> <li>参加職員数：延べ4,174人</li> </ul>	進捗
(6) 教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題等についての説明や研究協議を実施する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬県幼稚園教育課程等研究協議会を実施</li> <li>○年2回（6月21日、10月26日）</li> <li>○参加者数（6月：211名、10月：225名）</li> <li>○新幼稚園教育要領の内容及び幼稚園の教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題等についての講演や説明</li> </ul>	進捗
(7) 幼稚園側だけでなく、小学校の教職員に対して、様々な機会を通じて幼・小連携について説明する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園等中堅教諭資質向上研修と総合教育センター長期研修員の合同研修を実施した。</li> <li>○参加者数：幼稚園等教諭11名、長期研修員（小学校教諭11名、中学校教諭6名、特別支援学校1名）</li> <li>○内容：「異校種連携・接続の現状と課題～小学校の視点から～」</li> <li>「幼小の円滑な連携・接続のために」</li> <li>幼稚園等中堅教諭資質向上研修で小学校の授業参観を実施し、小学校教育への理解を深めた。</li> <li>○参加者数：11名</li> <li>○内容：授業参観・授業研究会</li> <li>「幼児教育と小学校教育」</li> <li>「夕やけ保育研修会」で小学校教諭と幼稚園教諭・こども園保育教諭の合同研修を実施した。</li> <li>○参加者数：小学校教諭20名、幼稚園教諭13名、こども園保育教諭12名、保育所保育士13名</li> <li>○内容：幼保こ小の連携・接続</li> </ul>	進捗

<p><b>(課題)</b></p> <p>(1) 経済的負担の軽減等が必要な子育て世帯を、社会全体で応援する機運の醸成を引き続き図ること。</p> <p>(2) 子ども子育て支援新制度等、国の施策に的確に対応すること。</p> <p>(3) 幼児期の成長を支えるための幼稚園や保育所等及び家庭における保育を充実すること。</p> <p>(4) 保育士や幼稚園教員等の資質向上のため、引き続き参加しやすい研修形態を工夫し、質の高い研修を実施すること。</p> <p>(5) 幼稚園や保育所等と小学校との連携・接続を推進すること。</p>	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究協議会等において、新幼稚園教育要領の内容における有識者の講演や、「就学前のぐんまの子どもはぐくみガイド2014」を活用しながら、幼稚園の教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題等における班別協議を行い、保育の質の向上に努めた。</li> <li>有識者による講演や研修会を行い、保育の質の向上に努めた。</li> </ul>
--	---

達成目標		基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 地域子育て支援拠点数(箇所) ※目標値を「ぐんま子ども・子育て未来プラン」の数値に変更		127 (H25)	126	134	136	143	141	70.0	147	【目標】市町村が(量の見込と確保方策から)策定した「地域子ども・子育て支援事業計画」の目標値を積み上げた県全体の数値。
(2) 保育アドバイザーの派遣回数(回)		78(H24) ----- 参考値 82(H25)	75	82	102	107	104	118.2	100	
(3) 幼児教育推進のための指導資料の活用割合(%)	公立	90.4 (H25)	95.0	98.8	100	95.8	92.9	26.0	100	
(4) 教育課程編成に係る連携を小学校と行っている園の割合(%)	公立	21.7 (H24)	53.8 (H25)	18.0 (H26)	50.0 (H27)	51.4 (H28)	80.0 (H29)	74.5	100	

<p><b>今後の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育アドバイザーの活用について、利用地域の拡大と教職員・子育て支援員の利用回数の増加を目指すこと。</li> <li>「夕やけ保育研修会」で幼児教育の課題の解決に向けた研修会の実施を目指すこと。</li> <li>研修会等において、新幼稚園教育要領の内容を踏まえた有識者の講演や幼稚園の教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題等における班別協議を行い、引き続き保育の質の向上に努めていくこと。</li> <li>子ども・子育て支援新制度が開始されたことに伴い、保育教諭を含めた新たな研修体制を構築する必要があること。</li> </ul>	<p><b>平成31年度/令和元年度の方向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育アドバイザーを更に多くの方に利用していただけるよう、チラシの作成・配布等、広報に努める。</li> <li>幼児教育施設の教職員・保育士、子育て支援員等が参加しやすい時間帯や会場等を決定し、「幼保こ小の連携・接続」等を内容として「夕やけ保育研修会」を実施する。</li> <li>群馬県の幼児期の教育の方向性を示した指導資料「就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン」(平成30年度)を活用しながら、子どもにとって望ましい保育、家庭における子育て支援、地域社会との連携を生かした保育の在り方について説明することにより、さらなる保育の質の向上を図れるようにする。</li> <li>前年度の研修実績等を踏まえ、引き続き質の高い研修を実施するとともに、新制度に対応した研修方法等について検討する。</li> </ul>
---	--

基本施策7 地域の教育力の向上と生涯学習社会の構築  
取組の柱⑮ 幼児教育の充実を図るとともに家庭教育や子育ての支援を推進する

取組35	市町村や民間団体と連携した家庭教育支援の推進	担当所属	生涯学習課 総合教育センター 義務教育課 子育て・青少年課 こども政策課	
30年度個別評価		「達成」・「進捗」 12項目 / 12		
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績		
(1) 「家庭の日」の絵画・ポスター・標語を普及啓発として募集・展示し、優秀作品を表彰する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画・ポスター及び標語を募集、優秀作品を選定</li> <li>・「群馬県青少年育成大会」により表彰</li> <li>・県民ホールで作品展示（12月）</li> <li>・春、夏及び冬（三季）の青少年健全育成運動啓発ポスターに、優秀作品を掲載</li> <li>○応募数：絵画・ポスター1,920点、標語11,222点</li> <li>※「少年の日」の分を含む</li> </ul>		進捗
(2) 「家族の日」の広報を行うとともに、県内中・高校生から「ぐんまこどもふれあい大賞」作文を募集し、優秀作品を表彰する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度は、子育てを頑張る人に向けた応援メッセージを募集する「ぐんま子育て応援メッセージ大賞」を実施。</li> <li>○応募総数2,160点（県内在学の児童・生徒・学生等2,102点、県内在住の大人等58点）</li> <li>○入賞作品（計18点）は、メッセージカードとして県内の子育て家庭に配布したほか、県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」に全文を掲載。</li> </ul>		進捗
(3) 新たな家庭教育支援施策や家庭教育に係る条例制定等について、先進事例等の情報収集を行い、PTAや市町村等と意見交換を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育支援連携会議の実施</li> <li>○県レベル：「家庭教育応援フォーラム」（PTAを含む14団体、187人参加）</li> <li>○地区レベル：教育事務所単位に「地区別家庭教育支援連携会議」（各教育事務所（10回実施）、延べ425人参加）</li> <li>・県の施策の周知を図るため市町村家庭教育担当者研修会を実施 ○29市町村、51人参加</li> </ul>		進捗
(4) 幼児教育相談事業の継続と関係各所との連携を図る。特に虐待が疑われるケースは、児童相談所と連携し未然防止を図り、必要に応じて来所相談のほか、訪問相談等のアウトリーチ支援を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども教育相談室による、子育て・保育相談</li> <li>○総件数：131件</li> <li>○登園渋り、反抗期の子供への関わり方、子育てにおける漠然とした不安など、様々な相談に対応（具体的アドバイス、相談者の気持ちに寄り添い心を安定させる等）</li> <li>○相談の内容により、児童相談所との連携や保育園への訪問相談を実施</li> </ul>		進捗
(5) 「よい子のダイアル」の主たる対象者及び内容等を明示して周知し、早期解決のため、相談事例をデータベース化し、Webページで公開する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よい子のダイアル」カード型リーフレットを県内小学校1年生に配布</li> <li>・Webサイトに「相談事例一覧」を掲載</li> </ul>		進捗
(6) 「ぐんま幼児教育プラン」及び「就学前のぐんまのこどもはぐくみガイド2014」に基づく家庭教育支援のための取組を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「就学前のぐんまのこどもはぐくみプラン」の作成</li> <li>○推進会議（年2回）、ワーキンググループ会議（年4回）</li> <li>○推進委員（11名）、ワーキンググループ委員（18名）</li> <li>○群馬が目指す幼児期の教育の在り方とそれを推進していくための保育の具体的な方策を示せるよう、現行の「幼児教育プラン」及び「はぐくみガイド2014」を併せた内容とした。その中に、保護者への支援を取り上げ、家庭教育力につなげられるように努めた。</li> <li>取組9：保護者への支援</li> </ul>		進捗
(7) 各地域、園の担当者同士が学び合う「家庭教育充実のための地域で取り組む子育て支援者研修会」を希望する地区及び総合教育センターで実施する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての支援者研修会を計8回実施した。</li> <li>○総合教育センター：2回</li> <li>○桐生、館林、みなかみ、邑楽、玉村、中之条：6回</li> <li>○参加者の満足度：99%</li> </ul>		達成

(8) 「まちかど子育て会議」や保育アドバイザーの派遣を充実する。	・保育アドバイザー派遣 ○派遣回数：104回、参加者数：4,768名	達成
(9) 学級懇談会、地域ボランティアの活用等、学校が有する機会に家庭教育に関する情報提供等を行う。	・「ワクわく子育てトークング」の出前講座をPTAセミナーや就学時健診時子育て講座等において実施 ○実施数：88回、参加者：保護者3,505人	進捗
(10) 家庭教育指導者の養成及びぐんま家庭教育応援企業の登録促進等により、家庭教育支援を進める。	・ワクわく子育てトークング（ぐんま親の学びプログラム）ファシリテータ養成講座実施 ○修了者51名 ・家庭教育支援者養成講座実施 ○修了者23名 ※ぐんま家庭教育応援企業は群馬県いきいきGカンパニー認証制度（労働政策課）に移管 登録数：ゴールド59社、ペーシック773社（H30.2.15）	進捗
(11) 企業に出向き、家庭教育の大切さ、父親の育児の大切さを伝える。	・ぐんま家庭教育応援企業職場内家庭教育研修会を実施 ○実施数：いきいきGカンパニーゴールド認証企業1社、一般企業1社、参加者33人	進捗
(12) 放課後子ども教室の全県的な整備を促進する。	・補助事業を活用し放課後子ども教室を推進 ○実施市町村数：21（うち新規3）	進捗
<b>（課題）</b> (1) 基本的な生活習慣の定着、自立心の育成、心身の調和のとれた発達等に大きな役割を担う家庭教育を推進すること。 (2) 相談内容の多様化・複雑化に伴い、関係機関と連携を図り相談体制を一層充実させること。 (3) 保護者への家庭教育支援を充実するため、関係部局や関係機関が連携し、各地域の家庭教育支援者を育成すること。 (4) 家庭教育支援に対する理解を促すため、企業や民間団体との連携を推進すること。 (5) 放課後児童クラブと連携した放課後子ども教室を引き続き推進し、児童の安全・安心な放課後の環境整備に向けた総合的な取組を推進すること。	<b>成果</b> ・家庭の教育力につなげられるよう、保護者への支援の在り方について具体的な事例を取り入れながら、「就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン」を作成することができた。 ・相談の内容により、児童相談所と情報を共有したり、保育園を訪問して、保育士に園児への関わり方等についてアドバイスをしたりした。 ・地区別連携会議、家庭教育応援フォーラムの開催により、福祉部局を含めNPOや関係団体の連携の意識が高まった。 ・平成30年度教育支援活動コーディネーター等研修会の開催により、学校や子どもたちの教育活動を支援するコーディネーター等の資質・能力の向上を図ることができた。	

達成目標	基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標値	備考
(1) 子育て支援者研修会への参加者数(人)	50 (H25)	104	209	235	383	286	236.0	150	【目標】1回定員50名の講座の回数を増やし、3回開催することを目標として数値を設定。
(2) 家庭教育カウンセリング専門講座修了者の計画推進期間中の累計数(人)	246 (H21～25)	21 (H26)	35 (H27)	65 (H28)	38 (H29)	23 (H30)	60.7%	300 (H26～30)	【目標】前計画の計画期間から概ね20%程度増加として設定。 【進捗分析】講座参加者は毎年60名を越えているが、修了には5回講座のすべてを受講する必要があり、実数は目標値に達していない。今年度より、前年度不受講講座を受講すれば修了認定を行うことに制度を変更した。

<b>今後の課題</b> ・保育アドバイザー派遣を更に充実させ、各子育て支援団体のニーズにきめ細やかに対応していくこと。 ・研修会等で、「就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン」を活用しながら、引き続き、家庭教育支援のための取組を図っていくこと。 ・ワクわく子育てトークング（ぐんま親の学びプログラム）を更に普及させていくこと。 ・地域での家庭教育支援を行う体制づくりを進めていくこと。 ・家庭教育カウンセリング専門講座（家庭教育支援者養成講座）の周知を工夫し、広く受講者を募ること。また、修了者の活動を支援していくこと。	<b>平成31年度/令和元年度の方向</b> ・「子育ての支援者研修会」は幼児教育の向上を目指す「タヤけ保育研修会」と統合する。 ・子育て支援関係団体への保育アドバイザー派遣の充実に努める。 ・研修会等で、家庭教育支援の在り方について、保護者が子育てへの不安や不満を気軽に相談できる体制づくりなどの具体的な方策を保育者に示していく。 ・ワクわく子育てトークング（ぐんま親の学びプログラム）の実施回数を増やすとともに、一般県民のファシリテータを養成する。 ・家庭教育養成講座の受講者を中心に、保護者に寄り添い支援等を行う家庭教育支援チームの結成を一層支援する。 ・県や市町村、関係機関に協力を得て、既存の家庭教育支援団体等に講座の周知を行う。 ・家庭教育カウンセリング専門講座（家庭教育支援者養成講座）修了者に対して家庭教育支援チーム結成に向けた支援や活動場所に関する情報提供等を行う。
---	---

基本施策7 地域の教育力の向上と生涯学習社会の構築  
取組の柱⑩ 社会教育を推進し地域の教育力を高める

取組36	地域の学びを支える人材づくり	担当所属	生涯学習課
30年度個別評価	「達成」・「進捗」 6項目/6		
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績	
(1) P T A指導者研修会等を実施し、地域人材の専門性を向上させるとともに、地域人材の人的ネットワークを構築する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県及び市町村P T A連合会と連携した幼小中P T A指導者研修会の実施</li> <li>○各教育事務所で「今後のP T A活動の役割」「自己肯定感を高める親子のコミュニケーション」等のテーマで協議参加者808人</li> </ul>	
(2) 地区別社会教育主事等研修講座において、地域課題等を研究・協議する機会を増やし、市町村職員の課題解決能力の向上を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センターの講座や市町村の研修と連携した地区別社会教育主事等研修講座を実施</li> <li>○中部・西部・北毛・東部の4地区参加者368人</li> </ul>	
(3) 社会教育関係団体を対象とした各種研修をより系統のかつ効果的な研修に見直すとともに、社会教育関係団体の横のつながりを構築するなど、県全体の社会教育を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任社会教育委員研修会の実施</li> <li>○参加者147人</li> <li>・社会教育関係団体、県公連、社会教育委員等による「県社会教育研究大会」を実施</li> <li>○テーマ：学校・家庭・地域の協働</li> <li>○参加団体：県レベル5団体、231人参加</li> </ul>	
(4) 子どもとメディアの関わり方について、生涯学習課、少子化対策・青少年課等が積極的に連携して、家庭教育支援を一層推進するなど、県全体での情報共有を図り、広がりをもたせ、より効果的に各施策が進められるようにする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・P T A連合会、青少推等と連携し保護者が多く集まる研修会等で「おぜのかみさま」のリーフレットを配布</li> <li>・教育事務所配置の青少年育成コーディネーターによる出前講座の実施（5教育事務所：39回）</li> </ul>	
(5) 「まなびねっとぐんま」に地域の社会教育を支える人材を登録し、活動分野等の情報発信を行うことで、地域の課題に適応した人材が活用されるよう働きかける。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報パンフレットの配布</li> <li>・県主催事業等の講師への登録依頼</li> <li>○平成30年度新規登録数（個人6・団体3）</li> </ul>	
(6) 地域住民の学校教育活動への協力を通して、地域の教育力の向上を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業を活用し放課後子ども教室や地域未来塾等を推進</li> </ul>	
<b>（課題）</b> (1) 地域住民主体の地域づくりを円滑に進めていくために、それを支える多様な人材を育成すること。 (2) 社会教育に関係する多様な団体と県が、より幅広く緊密に連携すること。 (3) 教育委員会以外の各部局が行っている社会教育に関する施策との連携を図ること。		<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修等を通じて、指導者の養成及び資質向上を図ることができた。</li> <li>・県社会教育委員連絡協議会やP T A連合会等の各種団体と家庭教育支援施策を中心に連携が強化された。</li> <li>・「まなびねっとぐんま」を通じて、教育委員会関係以外の様々な団体との連携を図ることができた。</li> </ul>	

達成目標	基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 地区別PTA指導者 研修会の参加人数(人)	1,254 (H25)	1,075	1,017	913	890	808	▲305.5	1,400	【目標】基準年度の数値を基に、10%程度増加させることを目標とした。 【進捗分析】学校行事等と研修会日が重なり、参加できない単位PTAの率が高かった。
(2) 「まなびねっとぐんま」講師・人材情報登録数(人)	256 (H25)	244	228	99	102	91	▲375.0	300	【目標】過去の伸び率などを参考に、対基準年度比で概ね20%程度増加させることを目標とした。 【進捗分析】H26より正確な講師情報を提供するために、毎年講師に登録継続確認を行い、活動実績のない講師は登録を外している。また、生涯学習センター主催講座の有料講師を特別講師として登録していたが、原則無料の講師を登録する趣旨から登録を外した。今後は生涯学習センター利用団体関係者に登録を呼びかけたり、市町村と連携して公民館事業の講師等に登録を呼びかけたりして登録数を増やしていく。

今後の課題	平成31年度/令和元年度の方向
<ul style="list-style-type: none"> <li>地区別PTA指導者研修会について、引き続き参加者の確保に努めていくこと。</li> <li>「まなびねっとぐんま」の認知度を上げ、学習情報の提供を充実させること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加体験型の研修等、魅力ある研修となるよう内容・方法を工夫する。</li> <li>「まなびねっとぐんま」のPR用チラシやポスターを作成し、関係諸機関や商業施設での広報活動を行う。</li> <li>関係諸機関と連携して、各社会教育施設等で活動している講師に「まなびねっとぐんま」の周知活動を行い、講師登録や講座等の情報入力について依頼を行う。</li> </ul>

基本施策7 地域の教育力の向上と生涯学習社会の構築  
取組の柱⑩ 社会教育を推進し地域の教育力を高める

取組37	青少年教育の推進	担当所属	生涯学習課 こども政策課 子育て・青少年課
30年度個別評価		「達成」・「進捗」 8項目/8	
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績	
(1) 県立青少年教育施設で各施設の特色を生かした自然体験・生活文化体験等の様々な体験活動の場や機会を提供し、青少年の健全育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林間学校等で利用する学校等に対して、各種プログラムを提供               <ul style="list-style-type: none"> <li>○提供プログラム：野外炊事、キャンプファイヤー、登山、クラフト等</li> <li>○学校等利用団体数：434団体</li> <li>※学校利用のほとんどが各種プログラムを利用</li> </ul> </li> </ul>	進捗	
(2) 県立青少年教育施設におけるボランティアの養成及びボランティア体験の場等の提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年ボランティア養成講座               <ul style="list-style-type: none"> <li>○実施場所：県立青少年自然の家</li> <li>○実施回数：計4回、延べ68人受講</li> </ul> </li> <li>・(公財)県青少年育成事業団による指定管理事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア体験講習会                   <ul style="list-style-type: none"> <li>連携先：(公社)県子ども会育成連合</li> <li>参加者数：延べ17人</li> </ul> </li> <li>○中学生・高校生交流ボランティア体験                   <ul style="list-style-type: none"> <li>連携先：ホリデーインまえばし</li> <li>参加者数：延べ48名</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>※ホリデーインまえばし：青年会議所を母体とする実行委員会が主催するイベントで、郷土を愛する子どもの育成、親子のコミュニケーション、異学年の子供同士のふれあいの場をもうけることなどを目的としている。</li> </ul>	進捗	
(3) 様々な要因により社会とうまく関われない青少年に、自然体験や生活文化体験等、様々な体験活動を関係機関と連携し提供する。また、保護者を対象とした交流会や情報交換の場を設け、必要に応じカウンセリング等による心のケアを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年自立・再学習支援事業(委託事業)               <ul style="list-style-type: none"> <li>○委託先：(公財)県青少年育成事業団</li> <li>○相談活動等：延べ1,354件</li> <li>○体験活動：延べ34人に機会を提供</li> </ul> </li> <li>・ぐんまいきいきチャレンジ               <ul style="list-style-type: none"> <li>○実施場所：県立青少年自然の家</li> <li>○実施回数：計17回(延べ25日)</li> <li>○参加者数：延べ680人</li> </ul> </li> </ul>	進捗	
(4) 「少年の日」について、絵画・ポスター・標語を普及啓発作品として募集し、作品を展示し優秀作品を表彰する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画・ポスター及び標語を募集、優秀作品を選定</li> <li>・「群馬県青少年育成大会」により表彰</li> <li>・県民ホールで作品展示(12月)</li> <li>・夏、冬及び春(三季)の青少年健全育成運動啓発ポスターに、優秀作品を掲載</li> </ul>	進捗	
(5) 少年の主張群馬県大会を引き続き開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人員45,895人、参加校数171校</li> <li>・教育事務所5ブロックから代表16人を選定し、9月15日(土)に県大会を開催</li> <li>・県大会優勝者は、県代表として関東・甲信越静ブロック大会に進み、努力賞を受賞した。</li> </ul>	進捗	
(6) 学校が長期休業になる期間を含む夏・冬・秋の三季に、青少年健全育成運動の啓発資料を作成・配布して集中的に運動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏、冬及び春の三季に、各市町村が地域で協働し、「おぜのかみさま県民運動」やパトロール等を集中的に運動を展開</li> </ul>	進捗	
(7) 県内全体で活動する青少年団体に対し、支援や助言等を行うほか、協働で指導者養成等を実施する。 【取組13再掲】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーイスカウト、ガールスカウト、(公社)県子ども会育成連合に事業費補助金及び催事補助金を交付               <ul style="list-style-type: none"> <li>○補助金交付額：1,900千円</li> </ul> </li> <li>・地域青少年育成アドバイザー認定講習会((公社)県子ども会育成連合主催)を後援、講師派遣</li> </ul>	進捗	
(8) 県内の中・高校生から、身近な幼児や児童とのふれあいを通して感じたことを「ぐんまこどもふれあい大賞」作文として募集し、優秀作品を表彰する。【取組35再掲】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度は、子育てを頑張る人に向けた応援メッセージを募集する「ぐんま子育て応援メッセージ大賞」を実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>○応募総数2,160点(県内在学の児童・生徒・学生等2,102点、県内在住の大人等58点)</li> <li>○入賞作品(計18点)は、メッセージカードとして県内の子育て家庭に配布したほか、県結婚・子育て応援ポータルサイト「ぐんまスマイルライフ」に全文を掲載。</li> </ul> </li> </ul>	進捗	



<p><b>(課題)</b></p> <p>(1) 日常生活の中で児童生徒の体験活動が減少しているため、児童及び親子を対象に、様々な体験の場を提供し、親同士のコミュニケーションの場としても活用することで、家庭や地域の教育力向上を図ること。</p> <p>(2) 青少年が同世代や異世代との多様な人間関係を経験しながら、社会的自立に必要な主体性や協調性等を育むことができるよう、地域での多様な活動の機会・情報提供の充実に努め、青少年及び地域住民の参加の促進を図ること。</p>	<p><b>成果</b></p> <p>(1) 各青少年自然の家の主催事業である親子体験活動では、ほぼ全ての事業で募集定員を上回る応募者があった。また、出前事業等の体験活動の場を提供することにより、家庭や地域の教育力向上を図ることができた。</p> <p>(2) 群馬県青少年推進会議や群馬青友会、群馬県青少年団体連絡協議会に対する補助を通じて、地域における青少年健全育成活動の充実に努めたことにより、地域活動への青少年及び地域住民の参加が促進した。</p>
---	---

達成目標	基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 県立青少年教育施設の利用者数(青少年自然の家・群馬県青少年会館4施設合計)(人)	110,196 (H24) ----- 参考値 112,018 (H25)	114,170	111,933	114,029	107,829	103,821	▲65.0	120,000	【目標】過去5年間の平均値の約10%増である、120,000人を目標として設定。 【進捗分析】主催事業では利用者数が増加しているが、児童数の減少もあり、自然の家の利用者数が減少傾向にある。
(2) 「自然体験活動」「社会体験活動」に係る事業への参加者数(県立青少年自然の家3施設合計)(人)【取組13再掲】	2,435 (H24) ----- 参考値 2,561 (H25)	2,542	<b>3,067</b>	2,644	<b>3,268</b>	<b>3,474</b>	<b>284.7</b>	2,800	【目標】基準年度の約1割増である2,800人を目標として設定。
(3) 「少年の日」 <small>標語</small> 、「家族の日」普及啓発応募作品数 <small>絵画・かみかみ</small> (点)	9,679 (H25)  1,406 (H25)	6,098	<b>10,568</b>	<b>10,448</b>	<b>10,554</b>	<b>11,222</b>	<b>480.7</b>  32.2	10,000  3,000	【目標】「少年の日」「家庭の日」の普及啓発を図るとともに、県民にどれほど浸透しているかを把握し、施策に反映させるために毎年作品を募集している。普及啓発により基準年度を超えることを目標として設定。

<p><b>今後の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と関係機関が密接に連携し、地域社会全体で子ども・若者を支援すること。</li> <li>・困難を抱えている子ども・若者が社会の中で自立・共生・参画できるよう、困難な状況に応じたきめ細やかに支援していくこと。</li> <li>・インターネットを安全に安心して利用するために必要な情報を、学校や警察と連携し、青少年及びその保護者に継続的に啓発していくこと。</li> <li>・困難を抱えている子ども・若者が社会的に自立できるよう、各分野の関係機関との連携を図り、支援体制の整備及び支援活動の周知に取り組んでいくこと。</li> </ul>	<p><b>平成31年度/令和元年度の方向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県青少年育成会議をはじめとする、地域で育成活動に取り組んでいる団体等との連携を深め、地域人材の育成に取り組んでいく。</li> <li>・学校を離れることで相談相手を失っている高校中退者や中卒進路未決定者に対し、本人の希望する進路に向けた支援に取り組んでいく。</li> <li>・セーフネット標語「おぜのかみさま」を活用したインターネットリテラシー教育に引き続き取り組むとともに、昨年度から開始した「インターネット依存症予防教室」を実施し、啓発に取り組んでいく。</li> <li>・「子ども・若者支援協議会」を通して、困難を抱えている子ども・若者の現況や進路希望を把握し、本人の希望にそった支援機関につなぎ、再学習支援や就労支援を行う。高校中退者、中学校卒業後進路未決定者が、高等学校卒業程度の学力を身に付けられるよう学習相談及び学習支援を実施する。</li> </ul>
---	--

基本施策7 地域の教育力の向上と生涯学習社会の構築  
取組の柱⑩ 社会教育を推進し地域の教育力を高める

取組38	学校支援センター等の充実	担当所属	義務教育課 生涯学習課 高校教育課
30年度個別評価 「達成」・「進捗」 9項目/9			
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績	
(1) 学校支援センターの充実 ① 学校の教育活動に対するボランティアによる支援の状況等を調査し、「効率」「安全性」「専門性」を考慮した上で、ボランティアの協力を得る活動を充実させる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校のニーズに合った活動が推進されている。学校行事（遠足・旅行等）においてボランティアを活用した学校が小学校124校（前年度比28校減少）、中学校・特別支援学校38校（前年度と同様）である。その他にも、読み聞かせや放課後補充指導、安全パトロール等にボランティアを活用している小中学校が多数ある。（H30学校支援センター運営推進調査より）</li> <li>地域ボランティアがボランティア活動保険へ加入 ○県内ボランティア活動保険加入数 14,733人</li> </ul>	進捗
② 保護者や地域住民の積極的な協力を得られるよう、学校支援センターの活動を周知する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校通信、学校ホームページ、PTA会議等での活動の周知と協力の依頼 ○県内ボランティア参加者数（実質人数） 約92,305人</li> </ul>	進捗
③ ボランティア活動を調整するコーディネーターやボランティアリーダーとして主体的に活動する人材を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校におけるボランティア・チューター「ようこそ先輩！」を実施 ○参加校：56校（公私立高校等） ○参加生徒数：280名（公私立高校等） ○受入小学校数：165校</li> <li>教育支援活動コーディネーター等研修会のほか、各教育事務所において学校支援センター推進研修会を開催し人材を育成 ○参加者数：264人（コーディネーター等研修会） ：564人（推進研修会）</li> </ul>	進捗
④ 学校訪問、研修や推進会議を通して、学校支援センターの取組を工夫・改善するための支援を実施する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>各教育事務所の社会教育主事による学校等訪問を実施 ○学校等訪問：140回</li> <li>各教育事務所において、学校支援センター推進研修会や推進会議を実施</li> </ul>	進捗
(2) 小・中学校における土曜日の教育活動等における外部人材の活用を市町村教育委員会と連携しながら推進する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業を活用し外部人材を活用した教育支援活動を推進 ○実施数：10市町村16か所</li> </ul>	進捗
(3) キャリア教育等において、地域社会（地域住民、地域企業等）との効果的な連携を図り、社会との接点に関わる教育を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>新規に群馬県キャリア教育研究大会を実施 ○特別活動やキャリア教育に関する実践発表及び有識者による講義を通して、キャリア教育の在り方についての理解を深め、各学校・地域の実情にあったキャリア教育の取組を推進した。 ・期日：平成30年10月30日（火） ・場所：群馬県総合教育センター ・講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程課研究センター教職課調査官 安部 恭子 氏</li> <li>参加人数：127名</li> </ul>	進捗
(4) 高校において、地域の関係者等と連携して生徒が地域の抱える具体的な課題の解決に主体的に関わっていく体験的・実践的な学習を行い、社会の形成に参画し、その発展に寄与する力の育成を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>各校の総合的な学習の時間及び家庭科等において、地域の関係者等と連携し、地域の課題解決に向けた学習を実施 ○全校で実施</li> </ul>	進捗
(5) 学校と自治会、生涯学習機関（公民館）の連携を推進し、双方向の交流に向けた取組を進める。		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と学校のパートナーシップ推進フォーラムや、各教育事務所の社会教育主事の学校等訪問を通じて、学校と地域双方向の交流を推進 ○フォーラム参加者：691人 ○学校等訪問：140回</li> </ul>	進捗
(6) 研修等により、教員の生涯学習・社会教育に対する知識・理解を高める。		<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修会に学校の管理職を含む教員も対象者に加えて実施。</li> </ul>	進捗

<p><b>(課題)</b></p> <p>(1) すべての学校において、学校支援センター等、地域と連携した活動を十分に機能させること。</p> <p>(2) ボランティア活動を調整するコーディネーターやボランティアリーダーとして主体的に活動する人材を育成すること。</p> <p>(3) 学校の教育活動に地域人材等を活用すること。</p> <p>(4) 教員の生涯学習・社会教育に対する知識・理解を高め、学校と家庭・地域とのつながりを持たせること。</p>	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての小・中学校において学校支援センターが設置されており、教科指導における学習支援や行事における活動支援等、様々な学校教育の場面でボランティアの協力が得られている。</li> <li>教科指導における学習支援や行事における活動支援など、様々な場面でボランティアが活動しており、実質人数で92,000人以上、のべ人数742,000人以上の方の協力を得ることができている。</li> <li>教育支援活動コーディネーター等研修会の参加者が、年々増加している。(H27: 154人、H28: 184人、H29: 233人、H30: 264人)</li> <li>「ようこそ先輩!」に参加した生徒は、社会性を伸ばさせ、自己有用感や自己を生かす能力を養うことができた。</li> </ul>
---	---

達成目標	基準値(年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率(%)	H30目標年度	備考
(1) 学校支援センターが機能していると答えた小・中学校の割合(%)	79.7(H25)	85.3	87.9	89.2	91.3	95.5	77.8	100	
(2) 年間の学習計画に地域の教育力を生かした学習を位置付けている小・中学校の割合(%) ※H25は学校支援センター推進状況調査に項目なし	79.8(H24)	85.3	90.0	90.3	90.4	91.9	59.9	100	
(3) 児童生徒を地域行事等に参加させている小・中学校の割合(%)	83.4(H25)	87.8	88.3	87.3	89.1	88.1	28.3	100	<b>【進捗分析】</b> 小・中学校ともに地域の行事等に参加しやすいようにする意識は高まってきていると考えられるが、各家庭に対して、理解を得られるよう働きかけていくことが必要であると考える。

<p><b>今後の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の要望に合う人材を見つけるための体制を充実させていくこと。</li> <li>計画的にボランティアの協力を得て、学校の教育活動の充実が図れるようにすること。</li> <li>地域の学校支援と学校の地域協力、という双方向の視点を強化すること。</li> </ul>	<p><b>平成31年度/令和元年度の方向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導資料「はばたく群馬の指導プランⅡ」において、各教科等の授業に活用できる地域人材の一覧を示すとともに、「学校・家庭・地域の連携」在り方フォーラム(仮称)を開催し、先進校の工夫や好事例を周知する。</li> <li>引き続きボランティアの増加に対応できるように、ボランティア活動保険を確保することにより、ボランティアが安心して活動できるようにする。</li> <li>学校支援センターの機能に「支援から協働」という視点での研修を充実させていく。</li> </ul>
---	--

基本施策7 地域の教育力の向上と生涯学習社会の構築  
取組の柱⑰ 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組39	読書活動の充実と県立図書館の機能強化	担当所属	生涯学習課 義務教育課 高校教育課
30年度個別評価		「達成」・「進捗」 12項目 / 12	
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績	
(1) 図書館横断検索システムの運営と協力車の運行により、図書館間の相互貸借を支援する。		・年間1万冊を超える相互貸借資料を配送 ○横断検索の利用回数 255,588回：前年度比108.3% ○協力車は県内6ルートを毎週巡回 ○県内参加館は130館	進捗
(2) 図書館司書実務研修を実施し、公共図書館職員の資質向上を図る。		・図書館（室）職員実務研修会を開催 ○年2回（9月、12月）、参加者151人	進捗
(3) 図書館未設置町村への児童図書の貸出しを行う。		・未設置町村の公民館等11か所へ図書の貸出を実施	進捗
(4) 読み聞かせボランティアの技能向上と取組への動機付けを図る。		・読み聞かせボランティア顕彰（県表彰）を実施 ○子ども読書活動の推進に貢献している5団体を顕彰	進捗
(5) 各高校の実情に合わせ、学校図書館を卒業生、保護者、地域住民等に引き続き開放する。		・県立高校のうち53校が一般開放を実施 （29年度の一般開放：58校）	進捗
(6) 県立図書館のレファレンス用資料の充実を図るとともに、人材育成を進める。		・608冊のレファレンス資料を受入 ・職員のスキルアップのため、類縁機関の視察や館内での研修会を開催、OJTの強化	進捗
(7) 公立図書館と連携した、児童生徒の読書喚起への取組を推進する。【取組9再掲】		・学習支援図書セットの貸出 ○学校等56か所に対し、6,528冊 ・朝の読書推進図書セットの貸出 ○小学校22校に対し、10,560冊 ○中学校5校に対し、2,400冊 ・学校図書館図書支援1000冊プランの貸出 ○4団体に対し、2,560冊 ・全国高等学校ビブリオバトル2018群馬県大会 ○19校19名出場、観戦者166名	進捗
(8) 総合学習支援図書セット、朝の読書推進図書セット、ぐんまの子どもにすすめたい本200選の貸出しをする。		・学習支援図書セットの貸出 ○学校等56か所に対し、6,528冊 ・朝の読書推進図書セットの貸出 ○小学校22校、10,560冊 / 中学校5校、2,400冊	進捗
(9) 学校図書館関係者実務研修会等を実施し、学校図書館関係者の資質向上を図る。		・学校図書館研修会を開催 ○年2回（7月、11月）、参加者115人	進捗
(10) 小・中学校において、各教科の年間指導計画に、学校図書館の利用を位置付け、司書教諭・学校司書等を活用した読書への興味・関心を高める指導を行う。【取組9再掲】		・平成30年度学校教育の指針「学校図書館の活用」として記載。 ○各教科等の年間指導計画への位置付け ○司書教諭や図書主任、学校司書との連携 ・新教育課程説明会で「学校図書館の機能」について説明。 ○読書センター、学習センター、情報センターの3つを機能させることの必要性	進捗
(11) 小・中学校の協力校で効果的な学校図書館の環境整備、学校図書館を活用した授業づくり等に取り組み、情報を活用した主体的・意欲的な学習活動や、読解力を高める学習活動等を広く普及する。		・「学校図書館充実事業」の実施 ○県内1校（草津中学校）を指定 ○学校図書館を活用した授業づくりの推進 ○効果的な学校図書館の環境づくりの推進 ○指定校の成果をWebページに掲載	進捗

(12) 高校において、各教科・科目における学習、総合的な学習の時間、課題研究等の中で、生徒が必要な情報を収集・選択し、それらを主体的に活用する学習活動が行われるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立高校の学習で学校図書館を活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語の授業で活用：48校</li> <li>○総合的な学習の時間で活用：27校</li> </ul> </li> </ul> (平成28年度学校図書館の現状に関する調査より)	進捗
--	--	----

<b>(課題)</b> (1) 市町村立図書館等の充実等、県民に身近な読書環境を整備すること。 (2) 県民が行う高度・専門的な調査、研究のための調査相談体制の充実を図ること。 (3) 公立図書館や学校図書館活動との連携を更に強化していくこと。 (4) 教育活動において学校図書館を積極的、計画的に利用すること。	<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館充実事業により、指定校においては、学校図書館の環境整備を全職員で行い、本の貸し出し数が確実に増加した。また、職員同士で学校図書館を活用した授業を提案し合うことができた。</li> <li>・新教育課程説明会やWebページにアップしたことにより、学校図書館の環境整備や各教科等による活用の重要性を広めることができた。</li> <li>・図書館間の相互貸借の支援を行うことにより、読書環境の整備を図ることができた。</li> <li>・レファレンス資料の収集や職員のスキルアップにより、調査相談体制の充実が図られた。</li> <li>・県図書館大会などの場で、公立図書館と学校図書館が協議を行うことにより、連携強化につなげることができた。</li> <li>・学校図書館を活用した授業の活性化を図るための講座を開催することにより、教育活動での学校図書館の積極的な利用を図ることができた。</li> </ul>
--	--

達成目標		基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 1日当たり30分以上の読書をしている小・中学生の割合 (%)	小	40.4 (H25)	41.3	40.6	39.3	39.3	44.5	42.7	50	
	中	33.1 (H25)	34.8	34.5	31.5	32.5	34.4	7.7	50	
(2) 公立図書館と連携している小・中学校の割合 (%)	小	53.2 (H24)	<b>60.6</b>	隔年調査	<b>63.3</b>	隔年調査	調査無	—	60	※隔年調査 本来ならばH30実施であったが、7年ごとの調査に変更された
	中	32.3 (H24)	27.1	隔年調査	35.2	隔年調査	調査無	—	50	
(3) 県立図書館におけるレファレンスサービス件数(事柄や事実調査、文献調査等の専門的情報提供サービスの件数。利用相談(書架案内や所蔵調査)は除く。)(件)		7,999 (H24) ----- 参考値 7,679 (H25)	6,598	4,170 (4月～9月未実績)	6,440	6,867	6,176	▲113.9	9,600	※H27は耐震化工事のため10月～3月まで閉館。 【進捗分析】 インターネット等手軽な検索ツールが増えたことで件数は伸びなかったが、内容はより高度で専門的になっている。

<b>今後の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校長のリーダーシップによる学校図書館運営、各教科等による学校図書館の計画的・組織的活用、司書教諭や学校司書の活用を一層推進すること。</li> <li>・「群馬県民の読書活動の推進に関する条例」制定を見据え、読書推進のための取組を進めること。</li> <li>・学校と公立図書館の連携を更に進めていくこと。</li> <li>・県民及び市町村図書館・学校図書館の職員の、レファレンスサービスの更なる活用を図っていくこと。</li> </ul>	<b>平成31年度/令和元年度の方向</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H28・29年度に比べて、H30年度は読書している児童生徒の割合は増加したが、H31年度は「学校図書館充実事業」の公開授業やWebページでの資料提供を通して、より多くの学校に、学校図書館の環境整備を行うことや各教科等の年間指導計画に学校図書館を位置付けることの重要性を伝えていく。</li> <li>・教員・学校司書・公共図書館向けの研修会を行い、学校図書館の授業での活用方法や学校支援が行える公共図書館職員の養成を図る。</li> <li>・レファレンス用資料の充実と人材育成を進めたことにより、高度で専門的な調査、研究に対応できる調査相談体制を整えることができた。今後は更にレファレンス機能の向上を図るため、レファレンス資料の収集、職員のスキルアップに引き続き努めていく。また、レファレンスサービスの活用をすすめるため、県内市町村図書館及び学校図書館職員に県立図書館の協力レファレンスの有用性を伝えていく。</li> </ul>
---	--

基本施策7 地域の教育力の向上と生涯学習社会の構築  
取組の柱⑱ 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組40	多様な課題に対応した学習機会の充実	担当所属	生涯学習課
30年度個別評価	「達成」・「進捗」	1	1
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績	
(1) 多様な学習情報や学習機会の提供 ① 高度で専門的な学習機会として、県民向けの県主催講座において、社会的な要請に対する問題を取り上げる。	・ 社会の要請としての現代的な課題解決に向けて、「課題解決支援講座」を実施 ○参加者数 335名	進捗	
② 公民館、博物館、美術館、カルチャーセンター等と連携し、連携講座として県民に多様な学習機会を提供する。	・ 連携期間に講座登録を依頼し、Web等により年間を通じた情報発信を実施 ○連携機関数 658、年間連携講座数 969	進捗	
③ 大学等の高等教育機関との連携により、大学等の機能を生かした生涯学習機会を提供する。	・ ぐんま県民カレッジ「オープンキャンパス」大学等出前講座として、大学や県の機関等連携した出前講座を実施 ○受講者 356名	進捗	
④ 県立学校がもっている教育機能を活用し、県民に対し開かれた学校づくりを行う。	・ ぐんま県民カレッジ「地域の学校開放講座」として、県内12校において講座を実施 ○受講者 281名	進捗	
⑤ 県民が身近な場所でいつでも生涯学習に関する情報が取り出せるよう、Webページでの情報提供を充実する。	・ Webサイトのリニューアルを実施 ・ Twitter、Facebook、Google+で共有できるソーシャルボタンを追加 ○年間掲載情報数 3,041件	進捗	
⑥ 行政職員や市町村公民館職員、地域団体・NPO等を対象とした研修を、各教育事務所と連携して県内複数箇所で開催し、学習機会の地域間格差是正を図る。	・ 各教育事務所と連携した「社会教育推進セミナー」や「社会教育実践研修」を実施 ○受講者数（セミナー110名・実践研修90名）	進捗	
(2) 学習成果の評価の仕組み ① 県民カレッジでの一定の単位数修了者に対し、奨励賞を交付する。	・ 「ぐんま県民カレッジのつどい」において奨励賞を授与 ○赤城賞（500単位）4名 ○榛名賞（300単位）7名 ○妙義賞（100単位）17名（平成30年度表彰）	進捗	
② 「まなびねっとぐんま」に生涯学習活動を行うことのできる指導者や団体情報を登録し発信する。	・ 指導者や活動団体等の情報を随時登録・更新 ○登録数（個人91名 団体56）	進捗	
③ 有効な学習成果の評価の仕組みを検討する。	・ 社会教育実践研修において、「客観的な根拠と評価を重視した事業企画」をテーマに研修を実施（参加者14名）	進捗	
(3) 学習成果の活用 ① 「まなびねっとぐんま」により活動分野等の情報発信を行うことで、地域の課題に適応した人材が活用されるよう働きかける。	・ Webサイトに活動報告欄を設け、県内の講座やイベント等の様子を発信する。 ・ 地域別または分野別に適応できる人材情報を提供	進捗	
② 各種講座修了者の名簿を市町村に提供し、地域における多様な学習活動や家庭教育支援等に活用されるよう働きかける。	・ 各種講座修了者名簿を県内各市町村に提供 家庭教育支援者養成 23名 教育メディア指導者養成講座 6名	進捗	

<p><b>(課題)</b></p> <p>(1) 県民ニーズの多様化・高度化に対応した取組や社会の変化に対応した学習プログラムを提供すること。</p> <p>(2) 県民が学習した成果が社会に適切に評価され、地域活動等で活用されていくよう環境を整えること。</p>	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育施設や大学等の高等教育機関との連携により、多様な課題に対応した学習機会や情報を提供することができた。</li> </ul>
---	---

達成目標	基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) ぐんま県民カレッジ入学者累計 (H12～) (人)	6,570 (H24) ----- 参考値 6,809 (H25)	7,186	8,214	9,224	10,368	10,801	984.0	7,000 (～H30)	【目標】基準年以前の3年間の年間平均入学者数約150名を踏まえて目標値を設定。
(2) ぐんま県民カレッジ連携機関数 (機関)	536 (H24) ----- 参考値 537 (H25)	541	551	658	661	658	190.6	600	

<p><b>今後の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ぐんま県民カレッジ」の認知度を上げ、県民への学習機会の提供を一層充実させること。</li> </ul>	<p><b>平成31年度/令和元年度の方向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係諸機関と連携して「ぐんま県民カレッジ」の周知活動を行い、入学案内や講座等の情報提供について依頼を行う。</li> <li>連携機関に対して、「まなびねっとぐんま」への情報入力やチラシへの「連携講座」の記載等、連携機関が行う事務的な内容について再度周知を行い、協力を依頼する。</li> </ul>
---	---

## 基本施策7における自己点検・評価結果

### 基本施策7（取組34～40）に対する評価の概要

#### 柱15 幼児教育の充実を図るとともに家庭教育や子育ての支援を推進する

家庭教育力向上につなげられるよう、保護者への支援の在り方について具体的な事例を取り入れながら「就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン」を作成することができた。また、各地域や保育園等からの要請による保育アドバイザーの派遣回数が増加し、多くの方に利用してもらうことができた。今後も、保護者が子育てへの不安等を気軽に相談できる体制づくりなどの具体的な方策を保育者に示すなど、各幼稚園・保育所・こども園と連携しながら、家庭教育支援を進めていく必要がある。

#### 柱16 社会教育を推進し地域の教育力を高める

すべての小・中学校において学校支援センターが設置され、多くの学校で機能している。今後は、「支援から協働へ」という視点から、地域が学校を支援するだけでなく、学校が地域に協力するという在り方も強化していく必要がある。

#### 柱17 生涯にわたる多様な学びを推進する

社会教育施設や大学等との連携により、多様な学習機会の提供をすることができた。今後も「ぐんま県民カレッジ」や「まなびねっとぐんま」について周知し、活用を促すとともに、県民が学習した成果が地域活動等で活用されるような環境を整える必要がある。

### 成果が上がっている主な達成目標

- 学校支援センターが機能していると答えた小・中学校の割合（取組38）  
79.7%(H25) → 95.5%(H30) [目標は100%]

**取組実績** 学校支援センター推進研修会や推進会議の実施

- ぐんま県民カレッジ入学者累計(H12～)（取組40）  
6,570人(H24) → 10,801人(H30) [目標は7,000人]

**取組実績** 社会教育施設や大学等との連携により、多様な学習機会を提供した

### 伸び悩んでいる主な達成目標

- 地区別PTA指導者研修会の参加人数（取組36）  
1,254人(H25) → 808人(H30) [目標は1,400人]

**今後の対応** 魅力ある研修となるよう内容や方法を工夫するとともに、研修の日程について配慮する。

- 1日当たり30分以上の読書をしている小・中学生の割合（取組39）  
【小】40.4%(H25) → 44.5%(H30) [目標は、いずれも50%]  
【中】33.1%(H25) → 34.4%(H30)

**今後の対応** 学校図書館充実事業の指定校における取組の成果を普及させるとともに、公立図書館と学校図書館との連携を強化し、読書活動を推進していく必要がある。

## 基本施策7に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

### 評価できる点

- ・学校支援センターが充実しており、地域との連携が進んでいる。
- ・高校中退者等に対する支援について、教育委員会と知事部局が連携して取り組んでいること。

### 課題

- ・コミュニティ・スクールの設置等を進め、学校支援センターのノウハウを活用しながら一層地域との連携を図ること。
- ・高校中退者等に対する支援について、より一層制度を活用してもらえよう、周知や内容の充実にも努めること。